

2019年度 決算説明資料

2020年7月3日



2019年度 決算発表について

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、海外関係会社の決算・監査作業に時間を要したことで、2019年度の決算発表が遅れ、ご迷惑、ご心配をおかけ致しました。

また、決算短信発表後に繰延税金資産の訂正等を行い、決算内容が変更となったことをお詫び申し上げます。

- 2019年度 決算概況
- 新型コロナウイルス対応
- 1921中期経営計画の進捗状況

2019年度 決算のポイント

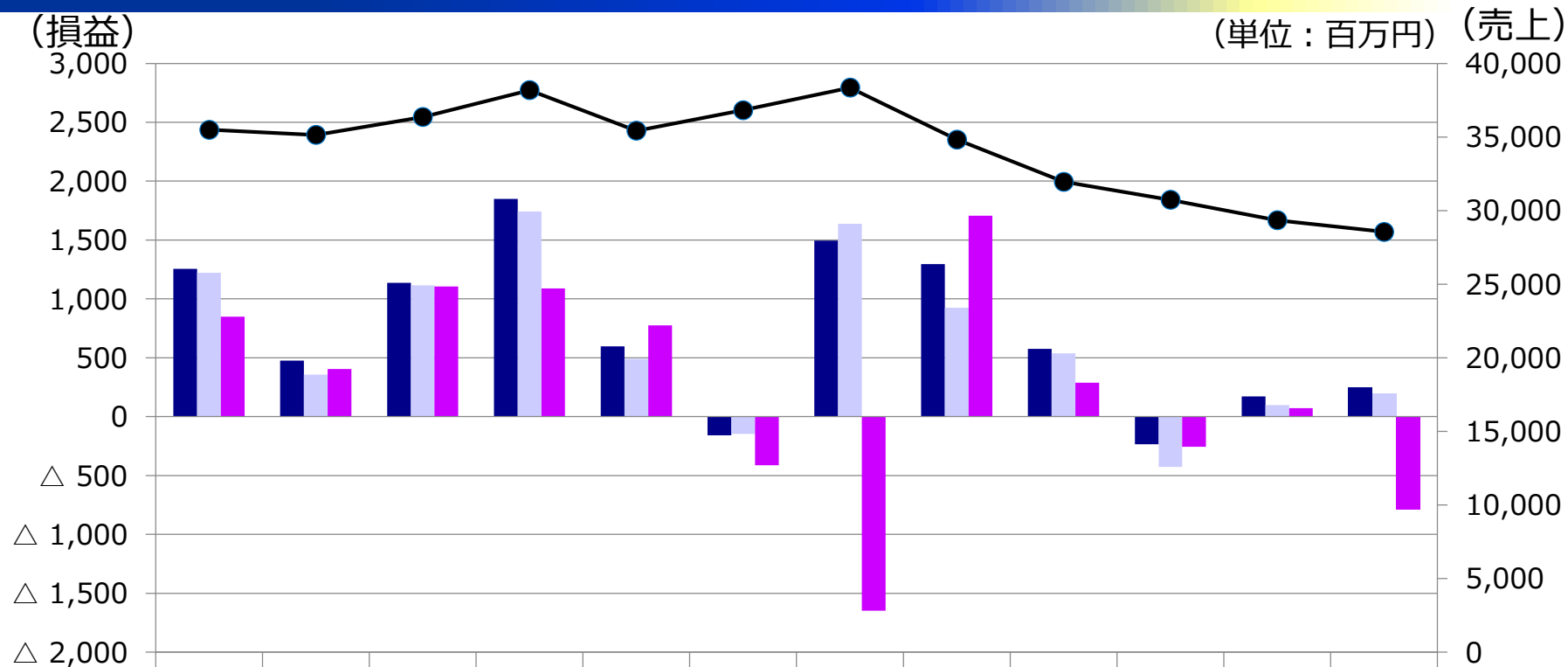
(単位：百万円)

	2018年度 実績 (利益率)		2019年度 実績 (利益率)		前期比増減	
	売上高	145,428	—	120,577	—	△24,851
営業利益	3,228	(2.2%)	764	(0.6%)	△2,464	△76.3%
経常利益	2,905	(1.9%)	406	(0.3%)	△2,498	△86.0%
当期純利益	421	(0.2%)	△685	—	△1,106	—

《全体感》

- ▶ 売上：中国、インドにおける自動車市場の低迷、主要顧客である自動車メーカーのグローバルでの生産量の減少、アルミ地金市況の下落等から大幅な減収
(また、売上減には北米での会計基準変更により約20億円減を含む)
- ▶ 営業利益、経常利益：売上高大幅減少により減益。原価低減等の改善でもカバーできず
- ▶ 当期純利益：繰延税金資産の取崩し等により、純利益損失

連結決算概要（四半期推移）



	17年度 1Q	17年度 2Q	17年度 3Q	17年度 4Q	18年度 1Q	18年度 2Q	18年度 3Q	18年度 4Q	19年度 1Q	19年度 2Q	19年度 3Q	19年度 4Q
■ 営業損益	1,255	477	1,136	1,850	596	△ 158	1,494	1,296	576	△ 235	171	252
■ 経常損益	1,222	356	1,115	1,743	490	△ 147	1,638	924	537	△ 427	99	197
■ 当期純損益	850	405	1,105	1,090	776	△ 413	△ 1,648	1,706	289	△ 256	73	△ 791
● 売上高	35,494	35,136	36,359	38,178	35,429	36,821	38,351	34,827	31,953	30,727	29,339	28,558

ダイカスト事業

(単位：百万円)

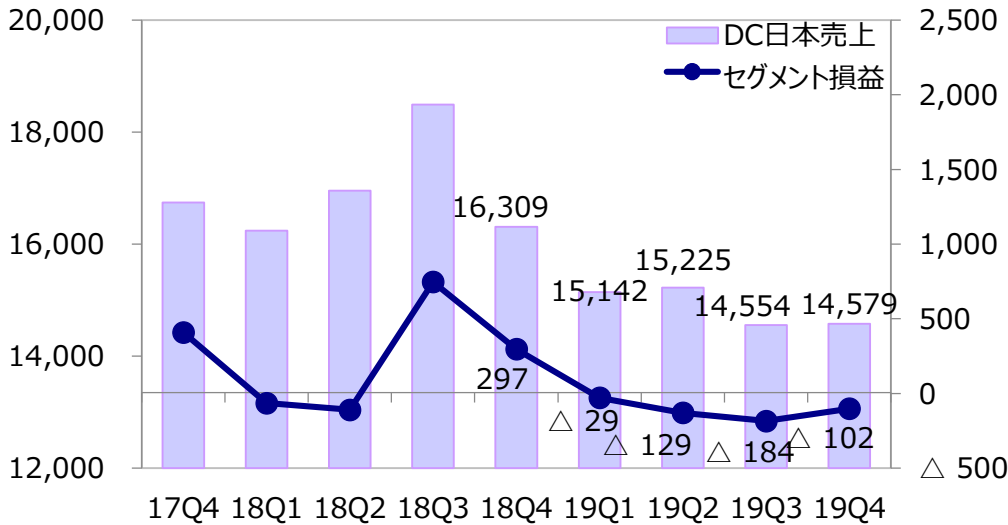
		2018年度 実績 (利益率)		2019年度 実績 (利益率)		前期比増減	
日本	売上高	67,998	—	59,500	—	△8,498	△12.5%
	セグメント損益	871	(1.2%)	△444	—	△1,315	—
北米	売上高	39,801	—	30,633	—	△9,167	△23.0%
	セグメント損益	123	(0.3%)	635	(2.0%)	511	416.3%
アジア	売上高	29,971	—	23,846	—	△6,125	△20.4%
	セグメント損益	1,841	(6.1%)	3	—	△1,837	△99.8%

※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算となります。

✓ ダイカストセグメントの海外売上比率
2018年度：50.6% ⇒ 2019年度：47.8%

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



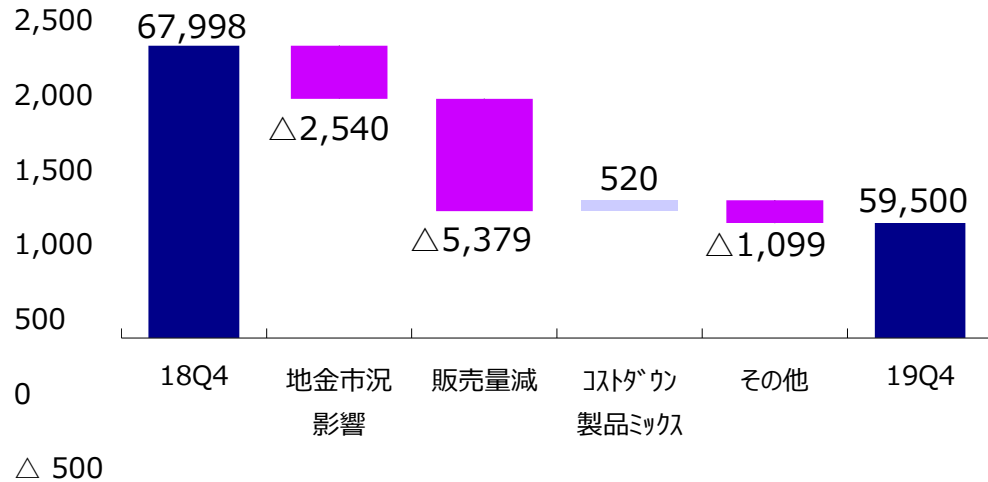
売上：84.9億円減（前期比12.5%減）

- 主要顧客の北米・アジアでの自動車販売低迷が続き、その影響で当社国内販売量も大幅減少
- アルミ地金市況の下落影響等も売上減少要因

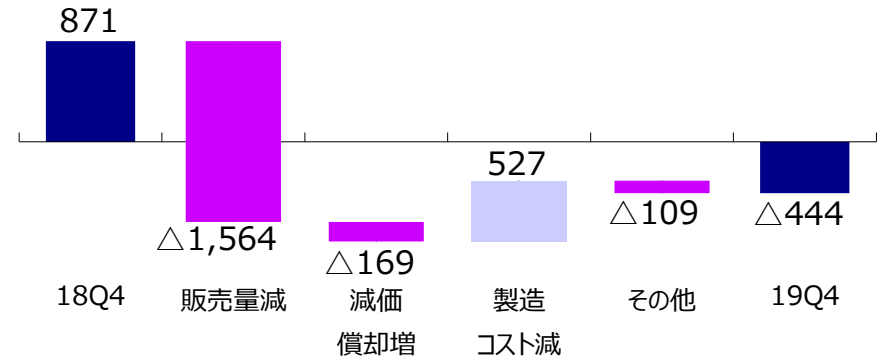
セグメント損益：13.1億円減（前期比減）

- 原価低減、生産性改善で製造コストの削減は進展したが、販売量減少による損失を上回るまでには至らずセグメント赤字

売上高増減要因（単位：百万円）

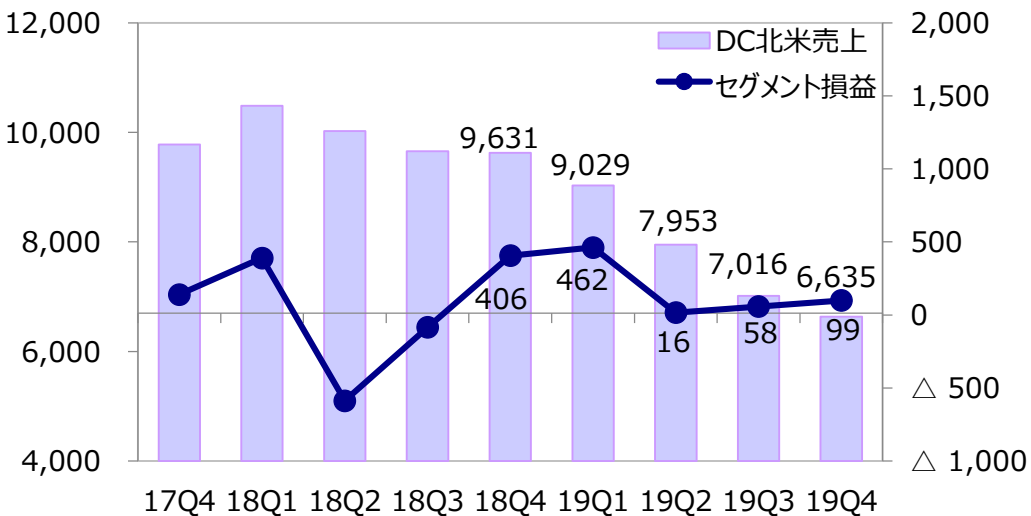


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



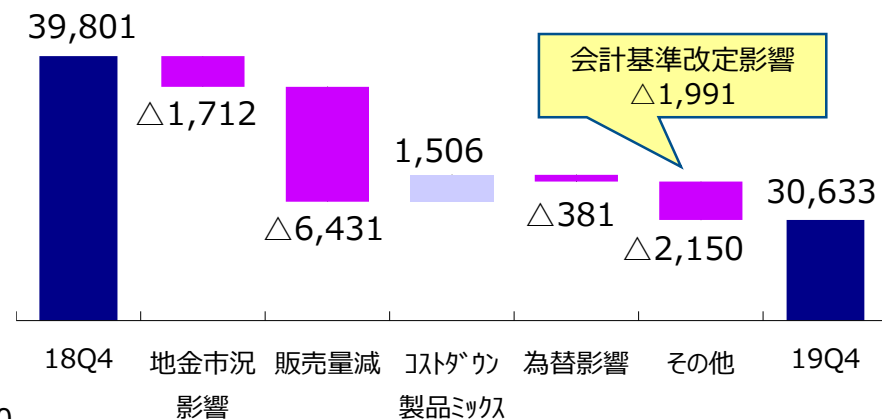
売上：91.6億円減（前期比23.0%減）

- 主要顧客を含む自動車メーカーの销售量減や一部顧客のストライキによる稼働停止により減収
- 売上減には米国工場の会計基準変更影響（約20億円）を含む

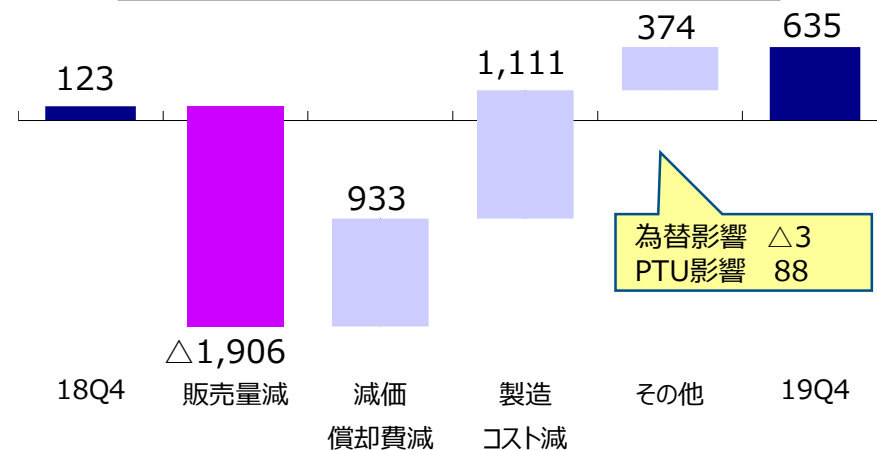
セグメント損益：5.1億円増（前期比416.3%増）

- 销售量大幅減の一方、生産性の改善による製造コストの削減と減価償却費の負担軽減等により収益改善

売上高増減要因（単位：百万円）



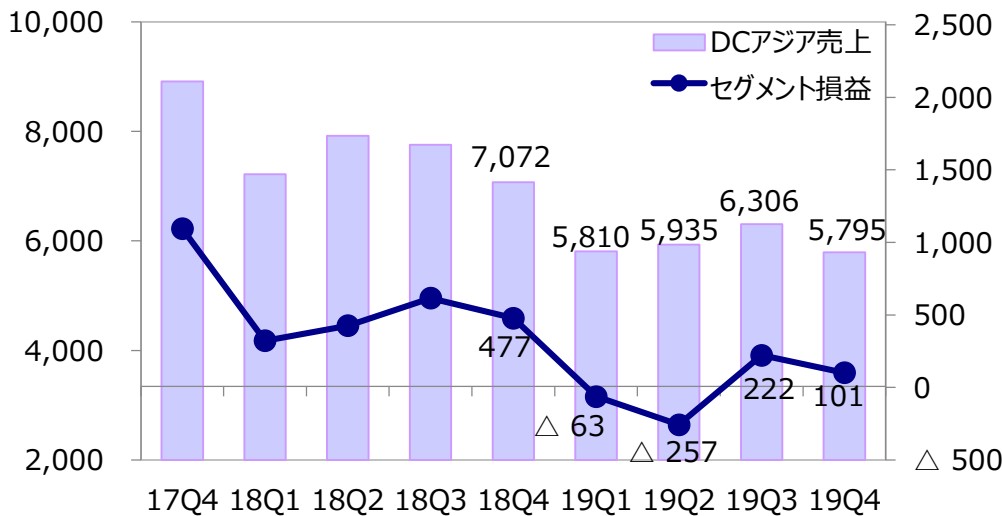
セグメント損益増減要因（単位：百万円）



決算期：アメリカ3月期、メキシコ12月期
 レート（18Q4⇒19Q4）アメリカ 110.72⇒108.10 メキシコ 110.58⇒108.85

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高/セグメント損益の推移 (単位: 百万円)



売上: 61.2億円減 (前期比20.4%減)

- 中国ローカル自動車メーカーの減速による販売量の落ち込みが続いており、為替等の影響も受けて減収
- インドは自動車ローンの貸出厳格化や排ガス規制強化に伴う買い控え等の影響もあり販売量減

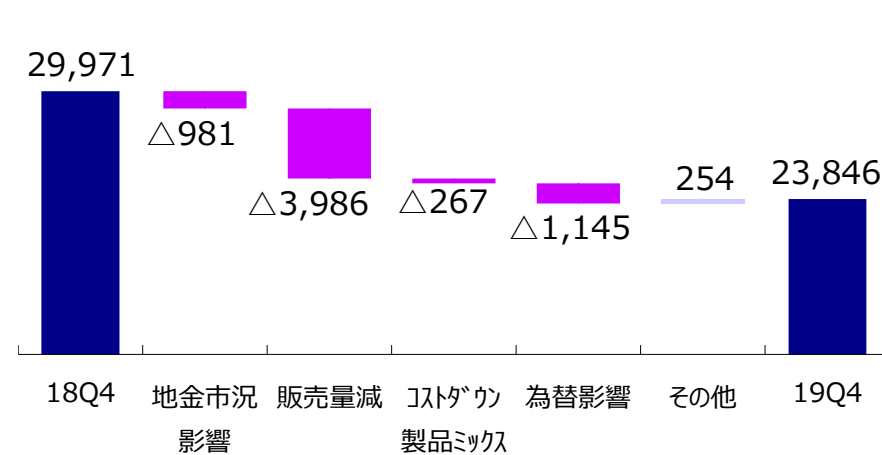
セグメント損益: 18.3億円減 (前期比99.8%減)

- 中国・インドの売上高減少の影響により大幅減益

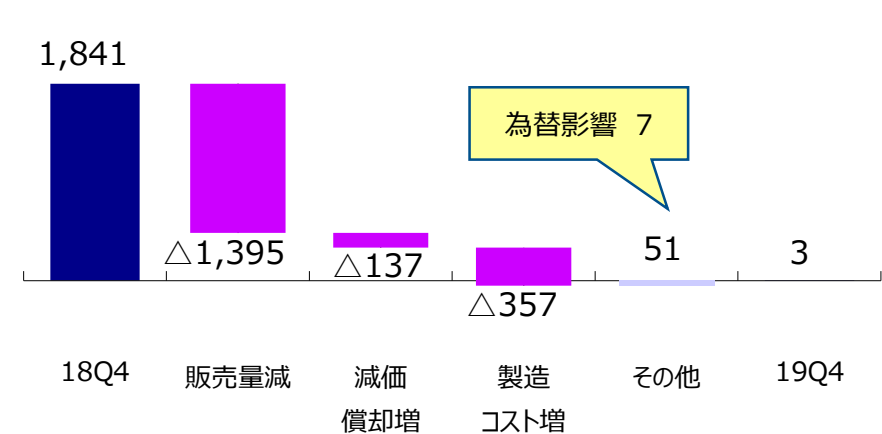
決算期: 中国12月期、インド3月期

レート (18Q4⇒19Q4) 人民元 16.69⇒15.95 インドルピー 1.59⇒1.53

売上高増減要因 (単位: 百万円)



セグメント損益増減要因 (単位: 百万円)



アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2018年度 実績 (利益率)		2019年度 実績 (利益率)		前期比増減	
アルミニウム 事業	売上高	4,679	—	3,993	—	△686	△14.7%
	セグメント損益	112	(2.3%)	169	(4.2%)	57	50.9%
完成品事業	売上高	2,976	—	2,603	—	△373	△12.5%
	セグメント損益	314	(10.5%)	277	(10.6%)	△37	△11.9%

アルミニウム事業

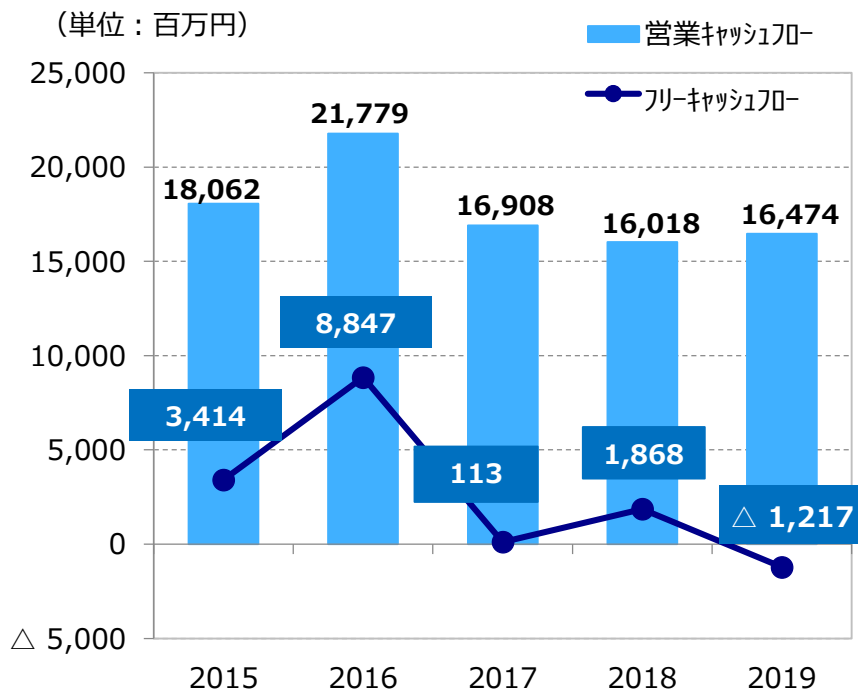
- 売上：アルミ地金市況の変動等により販売単価が下がり減収
- セグメント損益：原材料の調達価格下落等がコスト減に寄与し増益

完成品事業

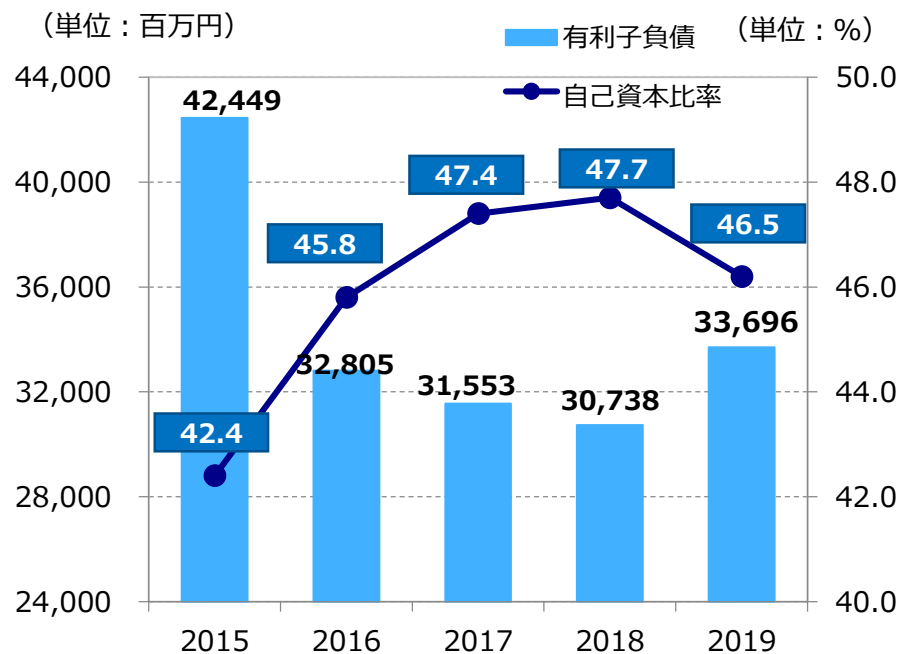
- 売上：19年度は市場の減少に伴いクリーンルーム物件等の受注が前期を下回り減収
- セグメント損益：受注減で減益、利益率は前年並みを確保

20年3月期の財務状況

営業CFは18年度並みの水準を確保。新規受注品対応の投資が増えた結果、有利子負債は増加となりましたが、自己資本比率、D/Eレシオ等の財務状況は引き続き健全な水準を維持できています。



フリーキャッシュフロー (FCF) = 営業CF - 投資CF



※参考値

D/Eレシオ (有利子負債 ÷ 株主資本)

18年度 0.50 19年度 0.58

株主還元状況

- 誠に遺憾ながら、2020年3月期の期末配当につきましては経営環境の不透明感が払拭できない状況を踏まえ無配とさせていただきました。

1株当たり配当金	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
(年間)	20	26	22	8
中間配当	8	12	10	8
期末配当	12	14	12	0
1株当たり純利益(連結)	178.77	133.40	16.26	△26.77
配当性向(連結)	11.2	19.5	135.3	—

- 役員等の報酬の減額（期間：2020年4月～9月）

- 常勤取締役：役員報酬の40～15%
- 執行役員：月額報酬の一部

※尚、2019年10月～2020年3月に関しても役員報酬の一部を自主返納

2020年度 業績予想の公表について

新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大している影響により、現時点で合理的な算出が困難な状況であることから、2020年度の業績予想及び配当予想につきましては、「未定」と致しております。

今後の業績への影響を慎重に見極め、合理的な予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

- 2019年度 決算概況
- **新型コロナウイルス対応**
- 1921中期経営計画の進捗状況

新型コロナウイルス感染拡大への対応策

- 各国政府、自治体の指示・対応方針にもとづき、感染防止策を徹底

主な感染防止策

- ✓ 工場・事業所でのマスクの常用、フェイスガード、ゴーグルの着用
- ✓ 入社時の検温の徹底による健康管理
- ✓ ソーシャル・ディスタンスの確保
- ✓ 定期的な消毒作業実施
- ✓ 各国の規制に合わせた感染防止マニュアルの作成・周知
- ✓ 業務における公共交通機関活用の制限
- ✓ Web会議の活用拡大、大人数での会議等の自粛
- ✓ オフィスではテレワークや時差出勤の活用 など

工場（海外） 入社時の検温 ▶



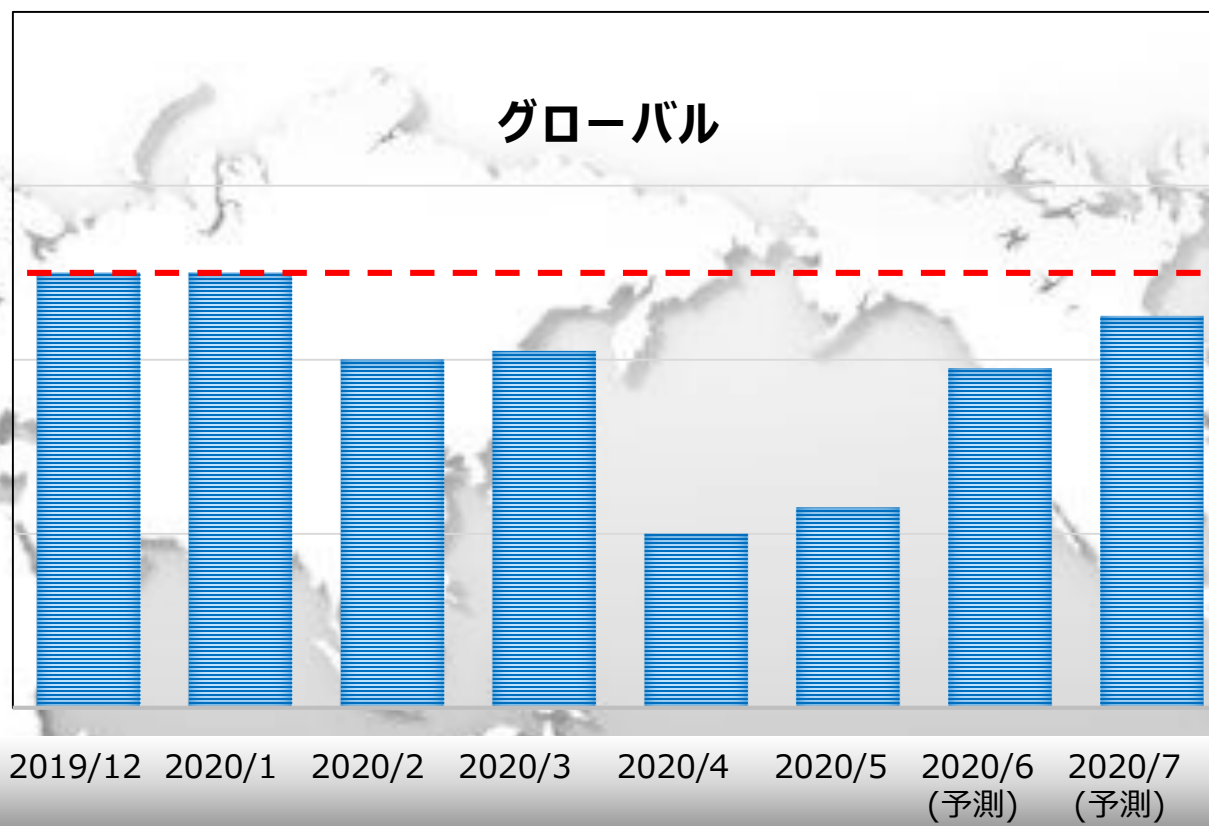
各拠点の操業状況（6月末時点）

全拠点とも6月までに稼働を再開し、顧客受注に合わせた生産計画により操業。
感染拡大が続く地域もあり、各拠点とも感染防止策を徹底しての操業体制を確保。

	操業状況						
	2月	3月	4月	5月	6月		
日本						<ul style="list-style-type: none"> ・4月中旬より顧客の生産に合わせた稼働対応中。 ・工場ごと生産量に応じた休業対応を継続しています。 	
北米	米						<ul style="list-style-type: none"> ・米国は5月中旬から顧客からの受注が再開し、稼働増加。
	墨						<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコは5月下旬に操業許可を得て稼働を再開。
アジア	中						<ul style="list-style-type: none"> ・中国は2月中旬より順次稼働再開し、前年水準並の生産量となっています。
	印						<ul style="list-style-type: none"> ・インドは6月より稼働を再開し、顧客の受注状況に合わせて順次操業を行っています。

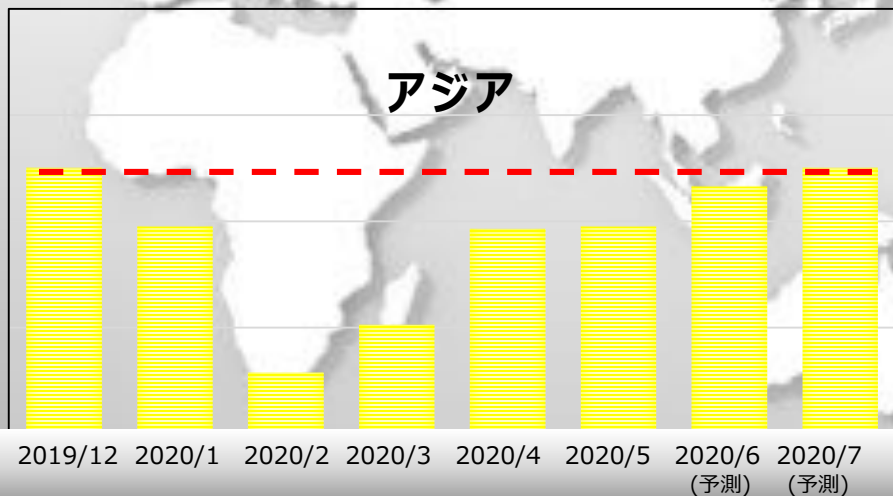
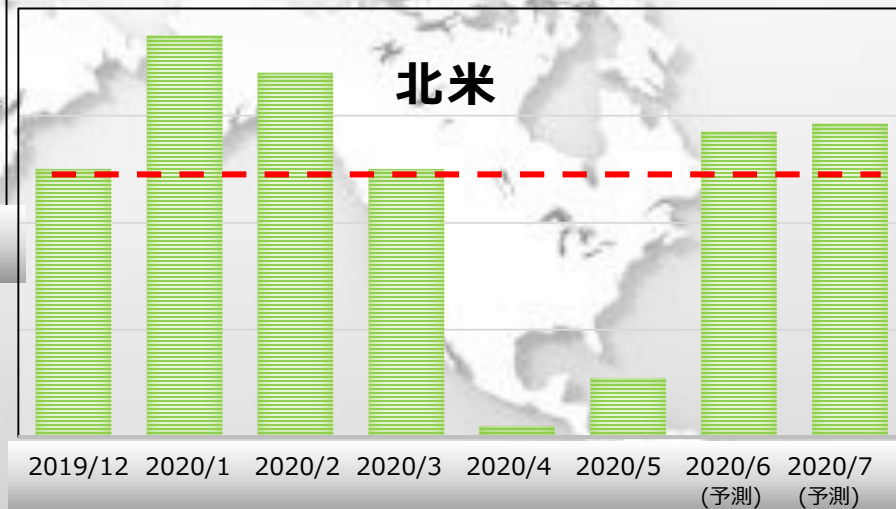
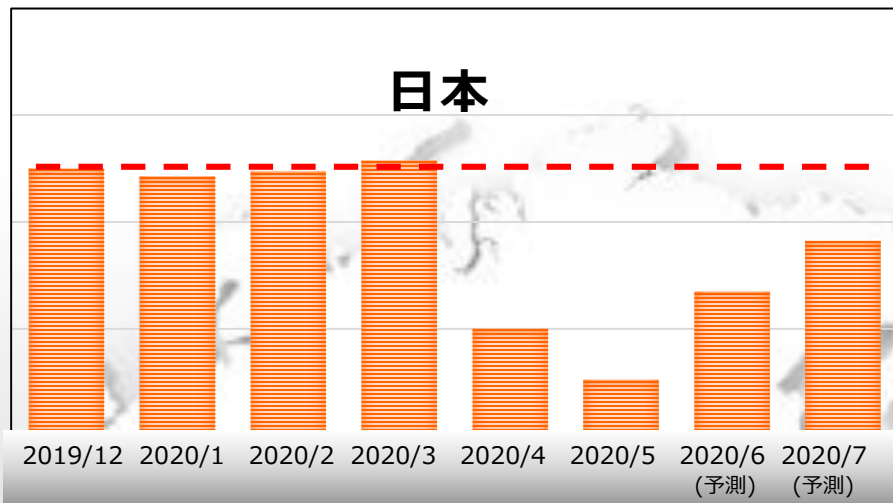
グローバル 売上重量

■ グローバルでは4～5月を底に回復基調



※新型コロナウイルス禍以前の12月を100とした場合の売上重量

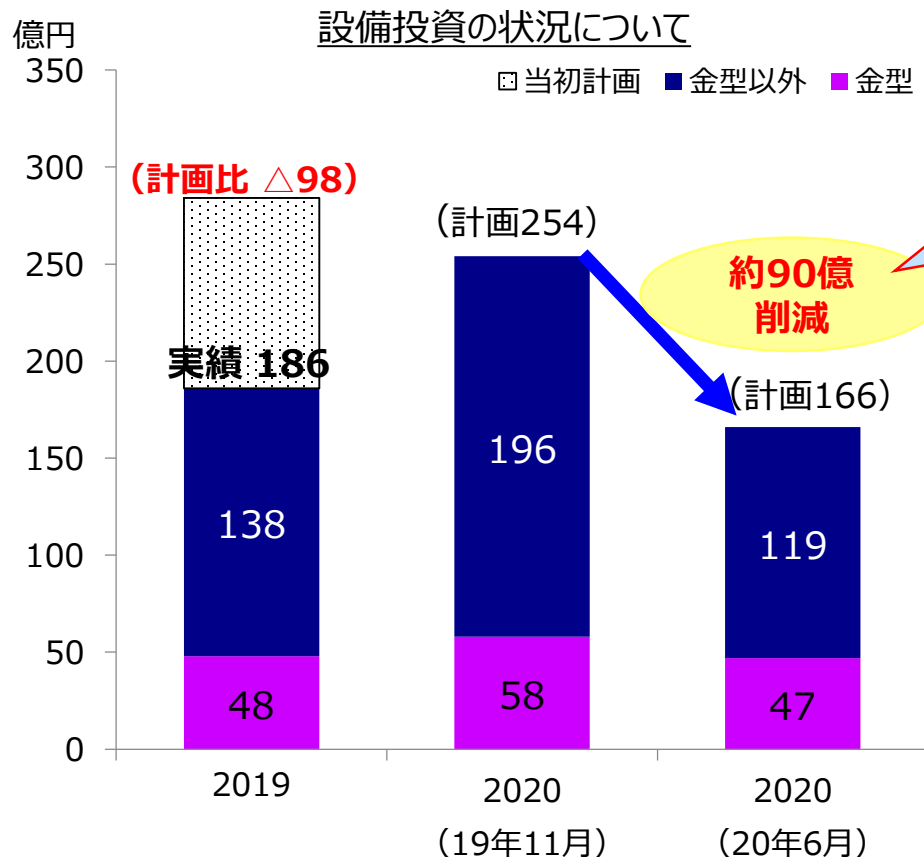
セグメント別 売上重量



※新型コロナウイルス禍以前の12月を100とした
場合の売上重量

20年度設備投資見直し

新型コロナウイルス感染拡大による市場環境変化に対応し、20年度の設備投資計画は大幅な圧縮方針で見直しを実施。



- ・投資の優先順位や時期の見直し
- ・生産性改善による投資抑制
- ・社内の遊休設備の活用

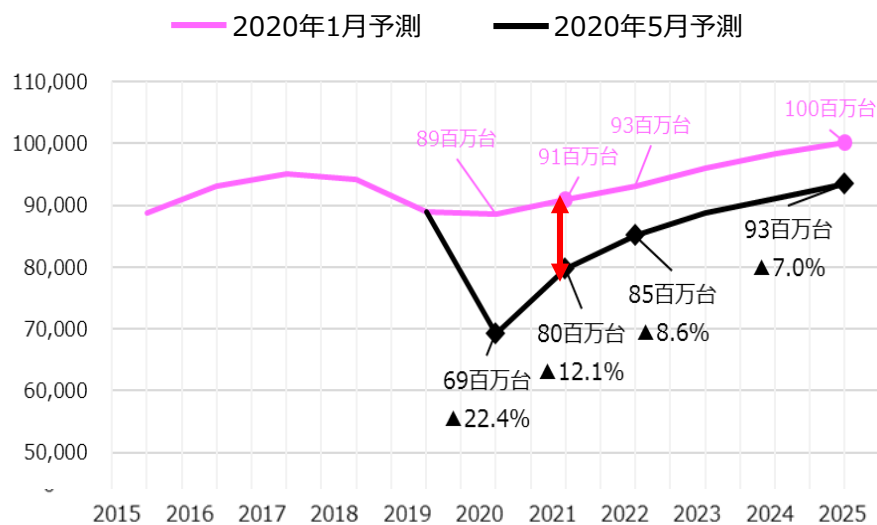
設備投資などの抜本的支出見直し、金融機関からの協力で手元資金を確保。

- ・20年3月末時点

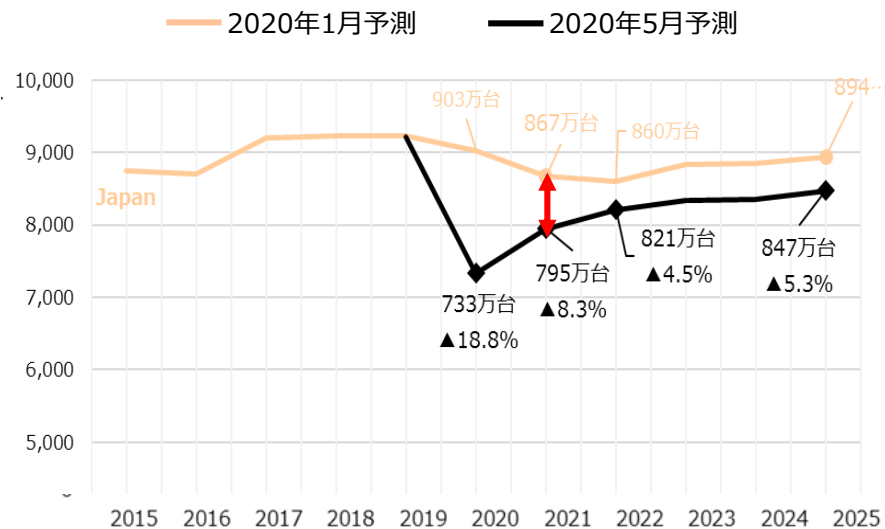
現預金残高	41億円
(5月末残高)	85億円)
投資有価証券	25億円

新型コロナウイルスによる車両生産台数影響 (IHS 5/20予測)

グローバル車両生産台数



日本における車両生産台数



2020年1月時予測 → 新型コロナウイルス影響

2021年 9,100万台 → 8,000万台 △1,100万台減

2025年 10,000万台 → 9,300万台 △470万台減

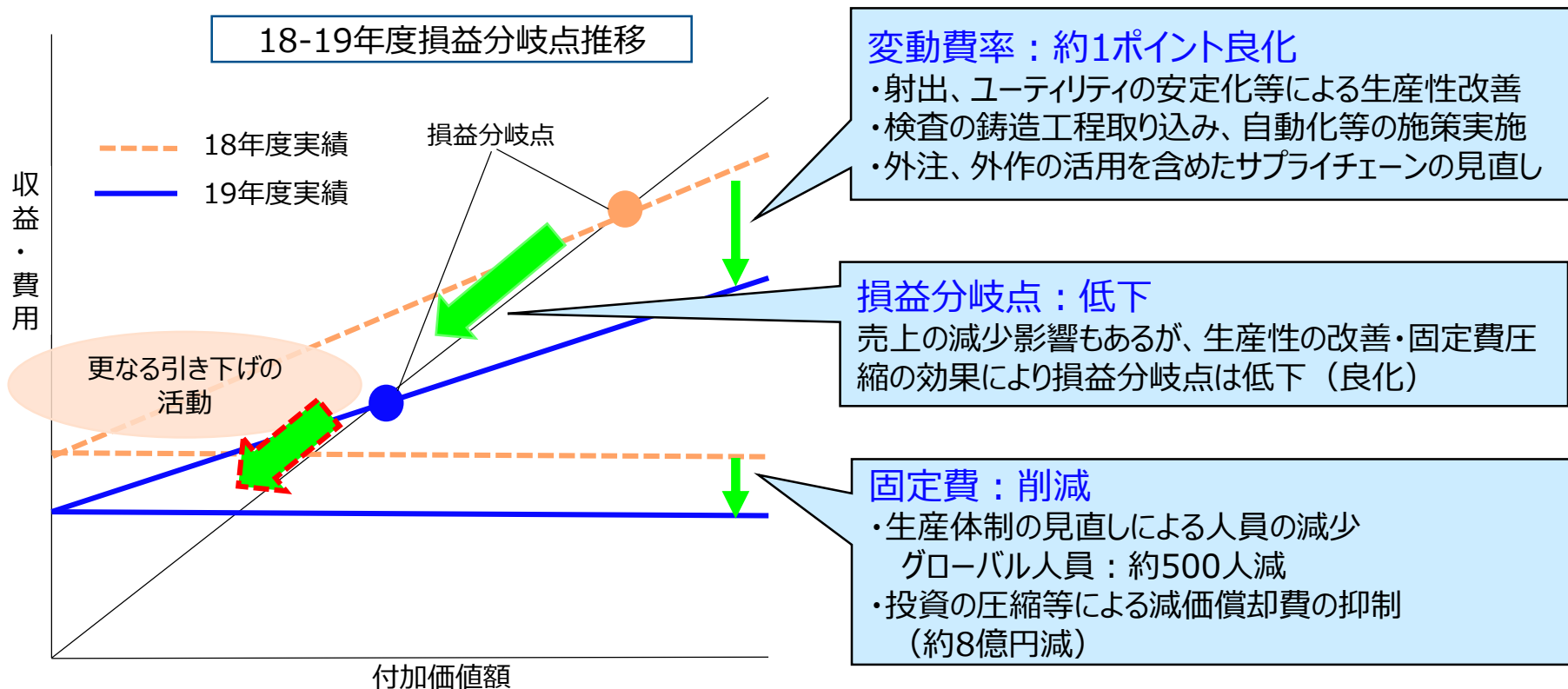
2020年1月予測 → 新型コロナウイルス影響

2021年 867万台 → 795万台 △72万台減

2025年 894万台 → 847万台 △47万台減

自動車市場の変化に対応した企業体質への改善

19年度からの中期経営計画でリーン生産体制への転換を推進中。損益分岐点も低下。
20年度以降も筋肉質な企業体質に向け一層推進。



- 2019年度 決算概況
- 新型コロナウイルス対応
- 1921中期経営計画の進捗状況

1921中期経営計画の基本方針

将来の自動車市場を見据えた事業戦略

生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ^o

企業の成長を支えるひとづくり

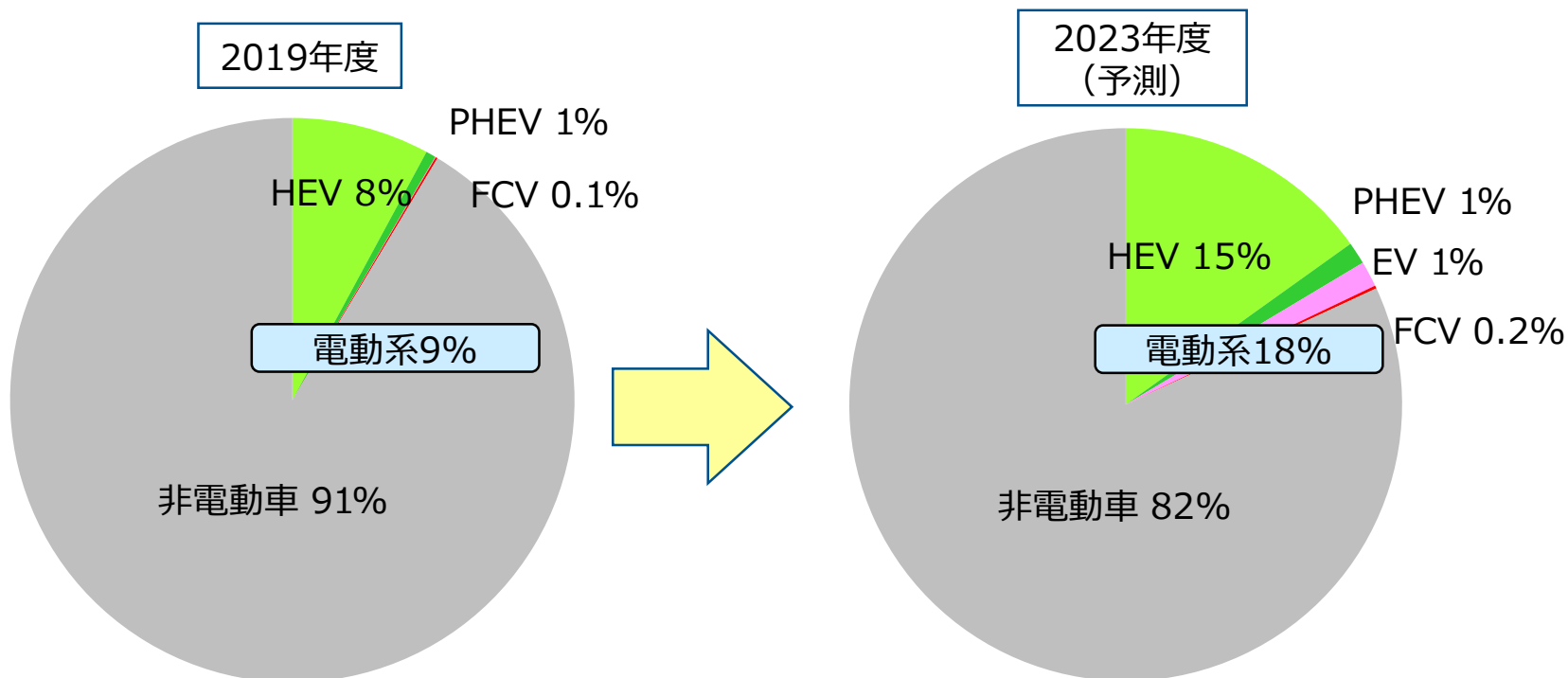
信頼を究めよう
2025

電動化部品群の受注に向けた取り組み

■受注が拡大し、将来の売上に寄与

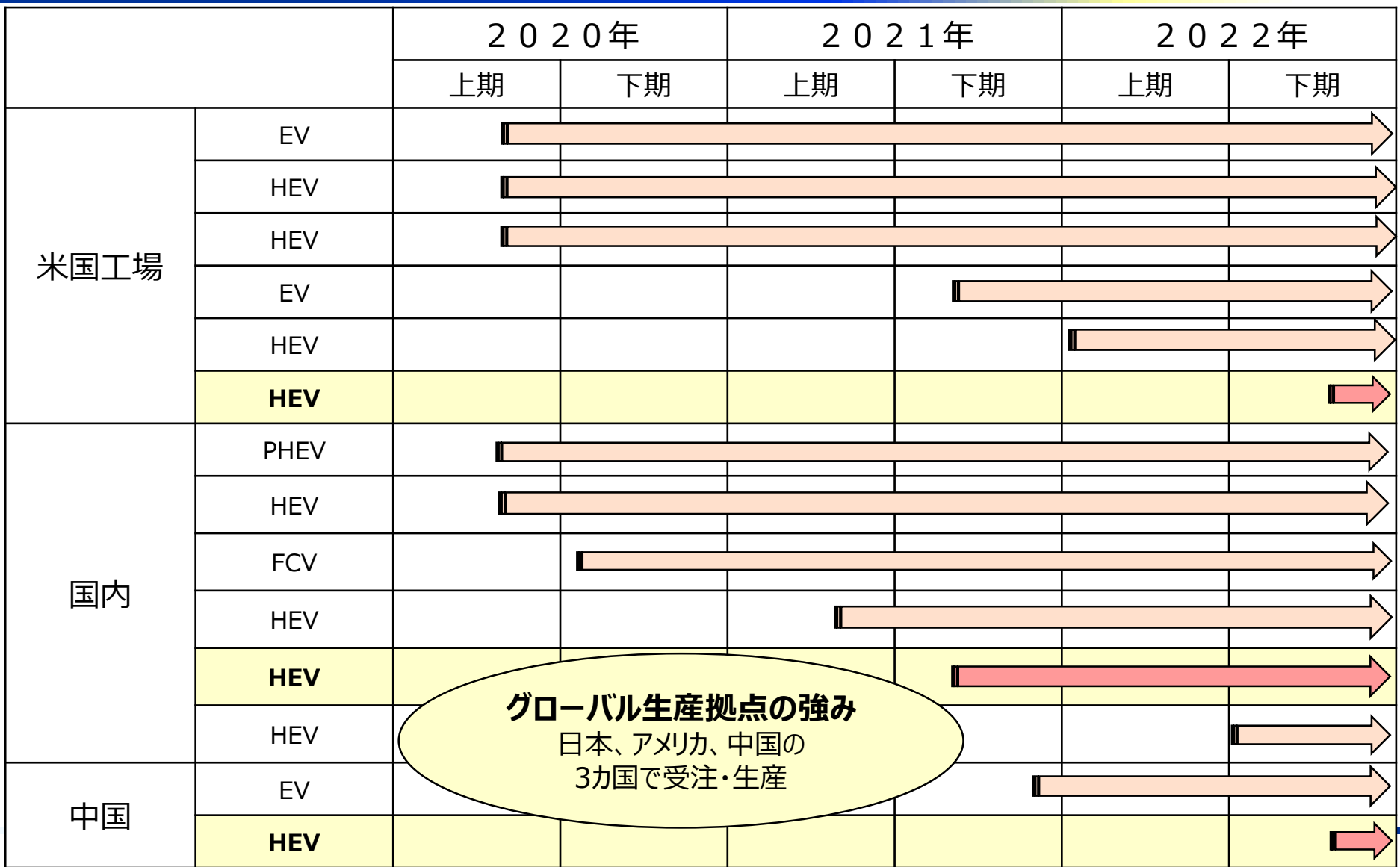
結果

電動車両搭載部品の売上シェア：19年度 9% ⇒ 23年度 18%まで拡大見込み。



将来の自動車市場を見据えた事業戦略 電動化部品群の立ち上げ状況

計画中



グローバル生産拠点の強み
日本、アメリカ、中国の
3カ国で受注・生産

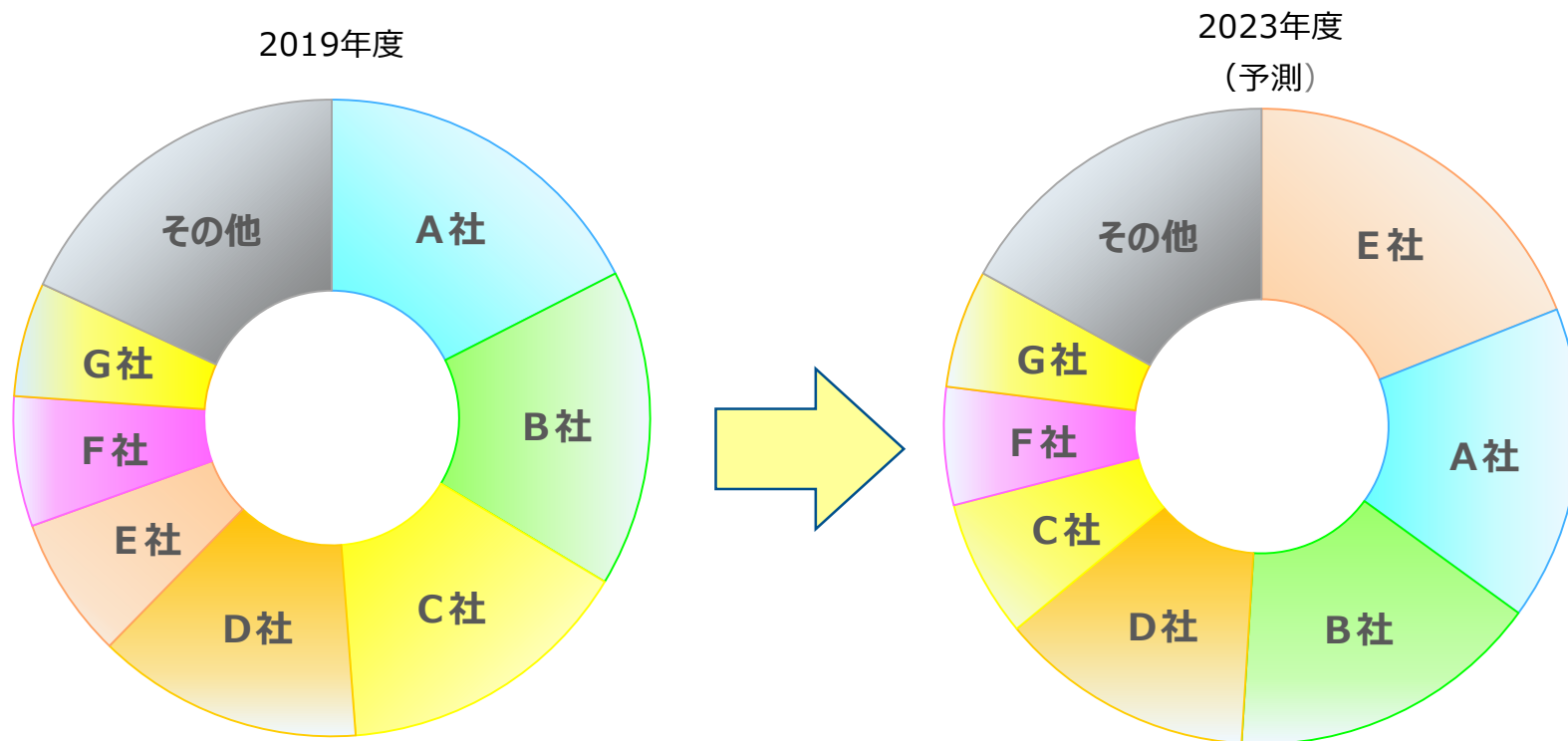
将来の自動車市場を見据えた事業戦略 顧客基盤の拡大

取組中

■地域×部品戦略により顧客基盤の拡大推進

顧客からもパートナーとして、戦略の一翼を担う存在としての声が強まる

顧客とともに成長を目指して営業活動を推進

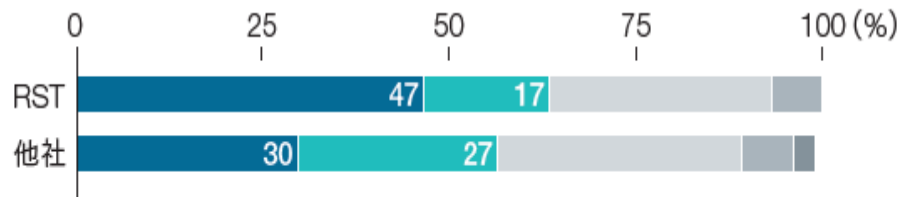


将来の自動車市場を見据えた事業戦略 高い顧客評価の獲得①

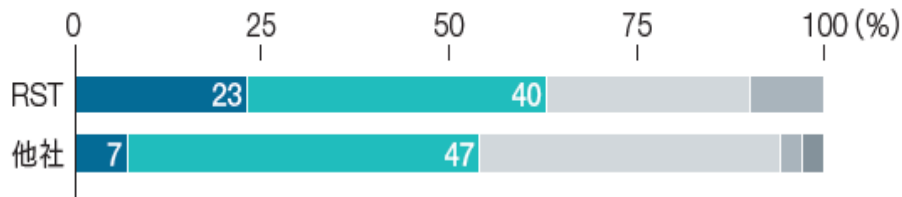
取組中

2019年度 顧客満足度アンケート (抜粋)

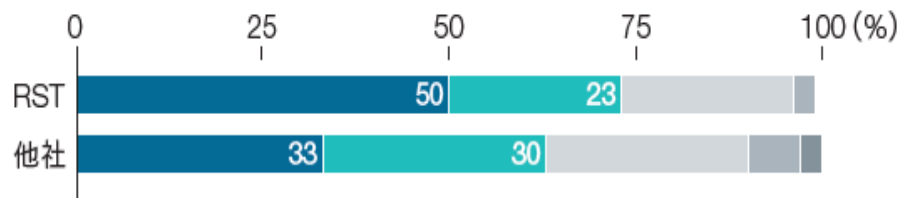
製品の品質



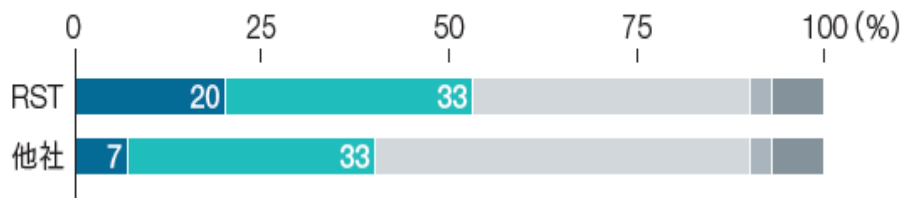
レスポンス



製品納期遵守



課題解決・改善対応



調査期間：2019年12月～2020年1月 調査対象：国内主要顧客 回答数：32社35名

■満足 ■やや満足 ■どちらともいえない ■やや不満 ■不満

将来の自動車市場を見据えた事業戦略 高い顧客評価の獲得②

■2019年度 主な表彰・受賞

- ◆ アイシン・エイ・ダブリュ株式会社 「海外支援貢献賞」
- ◆ 株式会社豊田自動織機 「特別賞」
- ◆ 広汽豊田発動機有限公司 「品質協力賞」
- ◆ JATCO Mexico,S.A. de C.V. 「ベスト・パフォーマンス賞」**2年連続**
- ◆ スズキ株式会社 「海外貢献賞」**2年連続**
- ◆ Maruti Suzuki India Limited 「Overall Performance」**3年連続**
- ◆ Honda Transmission Mfg. 「Challenging Spirit Award」



結果



生産性向上、品質向上による稼働力のアップ OPCCの実現による生産性・品質向上

統計的品質管理を活用した最適製造条件の追究

取組中

<要因>

<2Dコード付与>

<データの蓄積・解析>

材料



設備

(鑄造機・ユーティリティ)



鑄造条件



金型



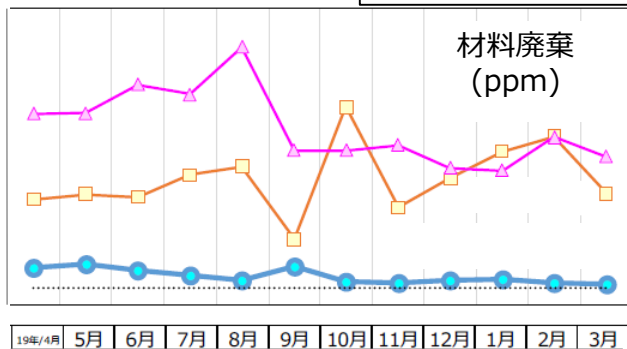
製造パラメーター計測値と
品質のひも付



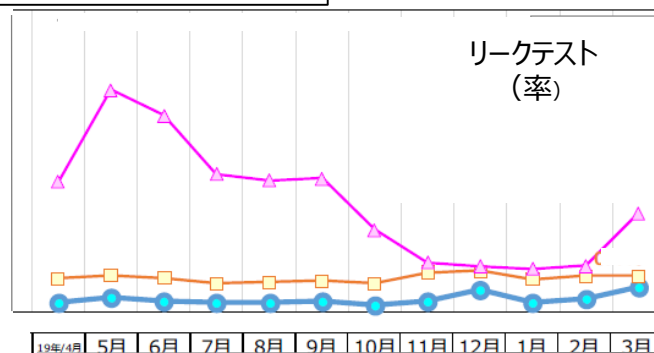
・実験計画法
・統計的手法

生産性
品質改善

2019年度 エンジンブロック同一製品 品質他社比較



● アールスティ
▲ 他社A
■ 他社B



※OPCC(Optimal Process Condition Control)
とは最適な良品製造条件管理のこと

生産性向上、品質向上による稼ぐ力のアップ リーンな生産体制の実現

取組中

[生産工程の省人化]

- ◆ 工程内品質保証により鑄造工程に検査を取り込み
- ◆ 自動検査機の導入、からくりの活用
- ◆ 設備改善によりオペレータの鑄造機担当台数増

[工程の同期化、動線短縮]

- ◆ 運搬作業等の動線見直しによる工程改善
- ◆ 仕上工程と加工工程の同期化による要員削減

[本社業務、間接業務のスリム化]

- ◆ 工場間の間接業務の統合、本社業務のスリム化



鑄造品の自動外観検査
(アーレスティ栃木)

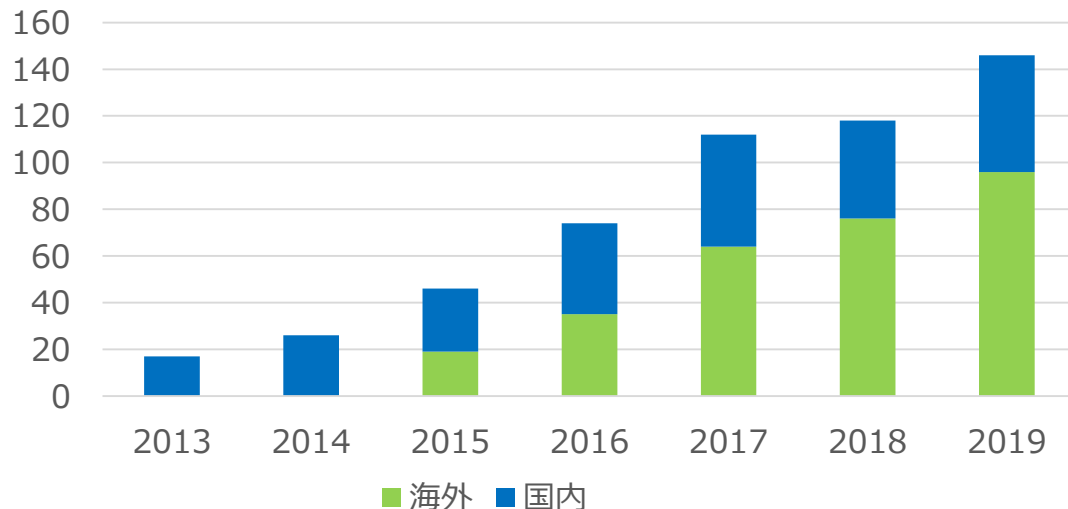


加工品の自動外観検査
(アーレスティブリテック)

企業の成長を支えるひとづくり グローバルでの教育・訓練の推進

結果

■現場管理監督者の教育人数推移



■グローバル統一カリキュラムの展開

- ✓「CASE」に関連する電気自動車、自動運転についての新講座を開講
- ✓ 2019年度に開催地を1拠点増やし海外は7拠点で展開

安全で作業負荷の低い環境の実現

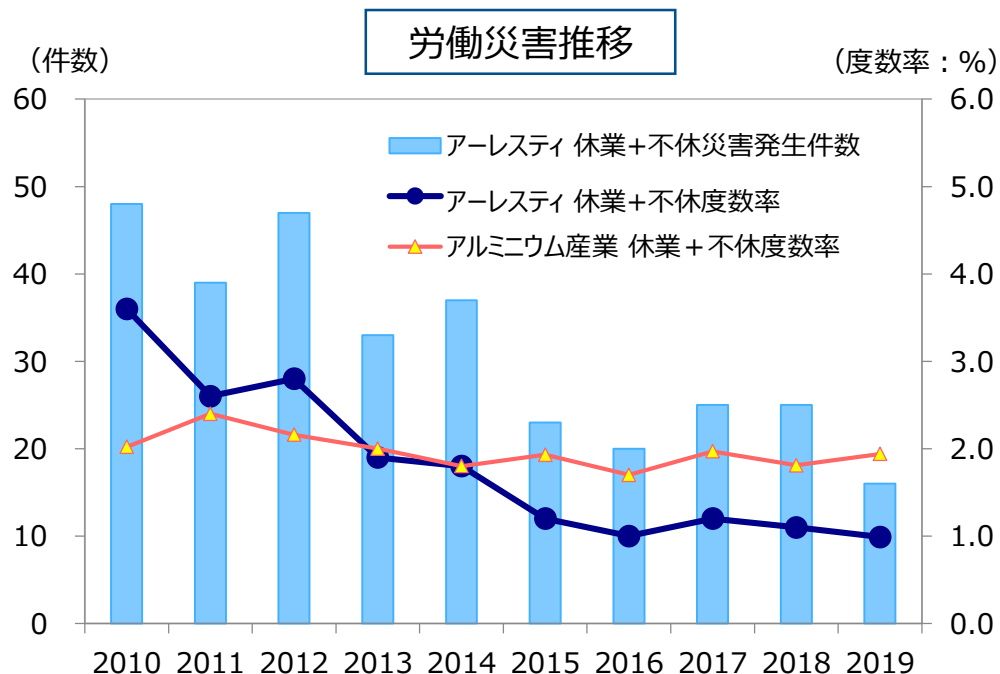
✓ 負荷の高い作業の改善

- ・ハンマー作業の削減数 74件
- ・重量物取扱い作業の削減数 198件

✓ 夏冬の体感温度の改善

- ・夏場:28℃未満 冬場:10℃以上に

✓ 騒音の改善



※度数率 = 災害件数 × 1,000,000 ÷ 延労働時間

※出典：(一社)日本アルミニウム協会「労働災害事例集 2019年11月」

コーポレートガバナンスへの取り組み

取組中

■指名報酬委員会の設置

取締役の選解任や報酬、取締役候補の要件についての議論を実施

コーポレートガバナンス改革の変遷

指名報酬委員会（6名）

社内取締役	2名
社外取締役	4名

コーポレートガバナンス
コード策定 | 2015

スチュワードシップ
コード策定 | 2014

2015

監査等委員会設置会社へ移行

2016

コーポレートガバナンスコード対応に伴うガバナンス強化

コーポレートガバナンスコード改訂 | 2018

2018

「譲渡制限付株式報酬制度」導入
取締役会実効性評価（アンケート方式）導入

2019

指名報酬委員会 始動

SDGsの取り組み

■「サステナビリティ会議」を設置

取組中

- ◆ 事業を通じた社会課題の解決による持続的成長
- ◆ グループ全体でSDGsへの組織的な対応を推進

■重要取り組み課題

社会課題解決に対しての貢献度が高く、かつアーレスティの事業との関連性が大きいもの



アルミダイカスト製品を通じた車の軽量化への貢献
⇒CO2排出量低減による気候変動影響の軽減



生産効率の向上による使用化石燃料資源の低減
⇒エネルギー効率の改善



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】
株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664
E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com
URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。